３．各部局の取組

文学研究科

文学研究科男女共同参画推進ワーキング・グループは、沼崎一郎教授（座長）・村山達也准教授・甲田直美准教授の３名の委員（女性１人、男性２人）によって構成されており、全学の男女共同参画委員である沼崎一郎教授が WG の座長を兼任し、活動している。

開催状況

会議については、男女共同参画推進ワーキング・グループの委員間で必要に応じて、メール等で行う形をとっている。

１　教職員や学生に対する男女共同参画活動への呼びかけ

男女共同参画シンポジウムへの参加、各種男女共同推進事業への応募等については、チラシ等を各専攻分野研究室に配布するとともに、主任教授へメール等で適宜呼びかけを行い、教員及び大学院生・学生への周知を図っている。

２　大学院専攻分野・学部専修における学生の男女構成比の均等化へ向けて

文学研究科・文学部には２５の専攻分野・専修があるが、所属学生の男女構成比に違いが見られ、一部の専攻分野・専修では男性あるいは女性に大きく偏る傾向が続いている。今後どのように対応すべきか、引き続き検討を進めている。

３　東北大学における男女共同参画推進のための行動指針に関する検討

文学研究科として、どのような具体策を採ることができるか、引き続き検討を進めている。

教育学研究科

今年度は、委員会としては、100周年という節目でもあった昨年度の文部科学省生涯学習政策課男女共同参画学習課課長による講演会に類似した取組を構想した。その結果、スウェーデンのストックホルム大学から学術交流協定も含めて「スウェーデンでの男女共同参画」というテーマで、3名の育児もしながら女性研究者としてスウェーデンに永住された日本人による講演会をスケジュールに盛り込んだが、先方の都合で来年度に延期となった。今後、先進的な試みを聞きながら、学内での活発な議論を行う機会がもたれることも期待される。その他としては、シンポジウムへの積極的な参加を促す呼びかけをおこなった。

なお、専ら委員の長は、両立支援ワーキンググループ長という立場で責務を果たした。

法学研究科

法学研究科における東北大学における男女共同参画推進のためのワーキンググループは、渡辺研究科長、坂本評議員、佐々木副研究科長、藤王事務長、石綿の男性 4 名、女性 1 名の計 5 名からなり、研究科における男女共同参画の状況、及び男女共同参画推進の方策について検討することを任務とする。平成 20 年 6 月から平成 25 年 3 月まで、法学研究科を中心にグローバル COE プログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」が実施され、ジェンダー平等問題に取り組んできた。同プログラムは終了したものの、そこで培った知見を、研究・教育活動に活かすこと、また、教職員及び学生が、学内外で男女共同参画活動へ参加することを積極的に推奨することを目的として活動をしている。

また、法科大学院等で「ジェンダーと法」などの講義を開講しており、今後も引き続き男女共同参画の推進に向けて積極的に取り組むことを目指している。

開催状況

ワーキンググループの会合自体は開催されていないが、男女共同参画推進のための目標の作成の際など、必要に応じてメール等で審議・意見交換を行っている。

1　ジェンダー学関連科目の開講

法科大学院・公共政策大学院「ジェンダーと法」（演習）：糠塚康江教授（前期）

経済学研究科

経済学研究科男女共同参画ワーキンググループは、平成 16 年度より継続的に活動しており、女性研究者育成を含めた男女共同参画に関する問題を検討している。平成 26 年度は 3 名の教員（うち女性教員 1 名）から構成され、随時メール等で審議を行うとともに、必要に応じてミーティングを開催するという機動的な体制で動いている。また、学内及び研究科内各種委員会や、研究科内外のイベント等とも連携し、高い成果をあげられるよう工夫している。

活動記録

男女共同参画活動参画の推進のために経済学研究科では以下の活動をおこなってきた。

1　各種の機関で専門委員を務めている。主なものは以下の通り。

① 石垣政裕講師: 子育てサポーター養成講座講師（宮城県）

② 若林緑准教授: 「少子高齢化における家庭及び家庭を取り巻く社会に関する経済分析」研究会アドバイザー（独立行政法人経済産業研究所）

③ 吉田浩教授: 宮城県男女共同参画審議会委員（宮城県）

また、吉田教授は読売新聞宮城版（平成 26 年 5 月 21 日）に「吉田教授：育児と両立　環境整備を」という記事を載せる等、メディアを通じた活動も行っている。

2　研究科内において、育児と仕事の両立支援策を継続的かつ積極的に進めてきた。現在、事務室職員（1 名）が平成 26 年 5 月より短時間勤務制度を利用している。また、子の看護の

ための休暇（特別休暇）の制度（小学生未満の子の看護・病院受診や予防接種、健康診断等受けさせる際に取得できる）も、平成 26 年度に 4 名（事務室 2 名、助手 1 名、准教授 1 名）に利用されている。

理学研究科

理学研究科男女共同参画推進委員会は、平成 14 年 9 月に設置された「男女共同参画推進 WG」を前身とし、平成 17 年 4 月から理学研究科の正式な委員会として発足し、組織的な取組を行っている。委員長は全学の「男女共同参画委員会」委員を兼ね、各委員は専攻教員各 2 名と事務・技術職員から成る 15 名（男 10 名、女 5 名：教員 10 名、事務職員 3 名、技術職員 2 名）のメンバーと、委員会内に設置した WG（セミナー企画、広報、女性院生支援、環境改善検討）の実務をサポートするオブザーバー2 名（女 2 名：教員 1 名、技術職員 1 名）から構成されている。

開催状況

平成 26 年

7 月 25 日　第一回理学研究科・男女共同参画推進委員会を開催し、今年度の活動方針を決めるとともに、それに基づき、役割分担（副委員長、セミナー企画 WG、広報 WG、女性院生支援 WG、環境改善検討 WG）と各責任者を決めた。第 11 回男女共同参画シンポジウム 11 月 29 日(土)の案内と参加の依頼を併せて行った。

活動報告

1　東北大学男女共同参画推進センターによりオープンキャンパスの企画の一つとして主催された下記の催しの広報ならびに運営を支援した。

・ 平成 26 年 7 月 30 日（水）12:00～13:30　31 日（木）12:00～13:30
オープンキャンパス for 女子高校生 2014
参加者：女子高校生 約 100 名（30 日）、約 50 名（31 日）、若手女性研究者 7 名、サイエンス・エンジェル参加者 44 名、センター室員 3 名
理学研究科・合同 A 棟 2 階 第 3 共通講義室（204 号室、205 号室）にて、前半は女子高校生向けに本学の教員ならびに大学院生（サイエンス・エンジェル）が研究を紹介。第二部では昼食を取りながら女子高校生とサイエンス・エンジェルとのグループトークによる進路相談会と若手女性研究者によるキャリア・研究紹介を実施した。

2　平成 26 年 10 月に竣工した理学研究科・合同 C 棟(H-04 棟)の 4 階に新たに女性休憩室を設置し、理学研究科内に設置した他の女性休憩室（３室）と同様にセキュリティー管理のもと運用を開始した。

3　女性休憩室利用ガイダンス開催
理学合同 A 棟 3 階 303 号室において女性休憩室利用説明会及び利用者登録を実施した。

・ 第 1 回：平成 26 年 4 月 15 日（火）12:20-13:00　参加者 38 名。
・ 第 2 回：平成 26 年 4 月 18 日（金）12:20-13:00　参加者 35 名。
・ 第 3 回：平成 26 年 10 月 27 日（月）12:20-13:00　参加者 6 名。
・ 第 4 回：平成 26 年 10 月 29 日（水）12:20-13:00　参加者 17 名。
※現登録者数 109 名（留学生・外国人研究員 13 名を含む）

医学系研究科

医学系研究科男女共同参画推進委員会は、平成 26 年 4 月に医学系研究科の正式な委員会として発足した。委員長は全学の男女共同参画委員会を兼ね、委員は、専任教員 6 名（男女共同参画担当総長特別補佐の大隅典子教授を含む）と総務室事務職 1 名で構成される。平成 26 年 8 月には、医学系研究科の呼びかけで星陵地区男女共同参画ネットワーク（SEIGN: SEIryo Gender equality Network）が正式に発足し、医学系研究科の男女共同参画推進委員会からは委員長、委員 1 名（総長特別補佐）、総務室事務職 1 名が参加している。

開催状況

平成 26 年

6 月 4 日　第一回医学系研究科男女共同参画推進委員会を開催し、医学系研究科の男女共同参画の現状/取組の経緯について、意見交換を行った。そのうえで、星陵地区で男女共同参画ネットワークを構築した場合に他部局と連携して実施できる取組と、医学系研究科独自で取り組むべき課題とを整理した。

8 月～　医学系研究科内での取組事項について、適宜、メール会議にて協議を行った。また、星陵地区男女共同参画ネットワークでの協議内容・活動内容をメールにて共有した。

活動記録

平成 26 年度、医学系研究科では以下の活動を行った。

1　男女共同参画セミナーの主催

平成 27 年 1 月 13 日 17 : 00～18 : 30、「女子大学院生ネットワーク形成と次世代支援 : 東北大学サイエンス・エンジェル活動の紹介」と題したセミナーを主催した（歯学研究科男女共同参画 WG 委員会との共同開催）。プレゼンテーターは、男女共同参画推進センターの橋爪圭助手、医学系研究科のサイエンス・エンジェル 2 名、歯学研究科のサイエンス・エンジェル 1 名であった。参加者は 20 名と少なめではあったが、サイエンス・エンジェルの魅力を存分にアピールするセミナーとなった。

2　サイエンス・カフェの共催

平成 27 年 3 月 7 日に遺伝人類学会が主催するサイエンス・カフェ「遺伝医療がもたらす未来」（仮）を医学系研究科男女共同参画推進委員会が共催する方向で準備を進めている。

歯学研究科

平成 26 年度の歯学部男女共同参画 WG 委員会は、菅原俊二委員長のもと歯学研究科及び病院所属の教職員 6 名で構成され、下記の活動を行った。本年も、全学の男女共同参画委員会（山本照子委員）や男女共同参画推進センターからの講演会など様々な情報の伝達や、委員間の意見交換などにメールを活用した。

開催状況

平成２６年度の事業計画について審議し、以下を行うこととした。

１　星陵地区におけるサイエンス・エンジェル活動紹介セミナーの実施

平成２６年１２月　今年度事業計画等について星陵地区男女共同参画ネットワー　クミーティングならびに委員間で、種々意見交換した。その結果、サイエンス・エンジェル活動紹介セミナーを医学系研究科と歯学部で共催し、星陵地区のセミナーとして実施することに向けて検討した。主催：医学系研究科男女共同参画推進委員会・歯学部男女共同参画ＷＧ委員会、共催：星陵地区男女共同参画ネットワークにて行った。

活動報告

１　星陵地区におけるサイエンス・エンジェル活動紹介セミナーの開催

平成２７年１月１３日に東北大学医学部保健学科A棟大講義室にて男女共同参画推進センター助手橋爪圭、医学系研究科M1松本郁美、歯学研究科D3龍剣蘭、医学系研究科D3（Aiセンター助手）髙根侑美が講演者として、SA活動の魅力や体験談を発表した。

SA セミナーでの参加者は２０名（アンケート回収１６名）であった。参加者は多くなかったが、熱心に聴講され、議論も活発に行われ極めて好評であった。

薬学研究科

薬学研究科では、5 名の教員により薬学研究科男女共同参画推進委員会を運営し、このうち１名が全学の男女共同参画委員を兼任している。本研究科における男女共同参画に関する活動は、本委員会が中心となり事務職員の協力のもと実施している。なお、薬学研究科の教授1名は、男女共同参画推進センターの協力教員も兼任している。

開催状況

会議は定期教員会議の場あるいはメールを用いて、不定期に意見交換・情報提供を行う形をとっている。

活動内容

以下の取組を行うよう努めている。

１　次世代の女性研究者・女性リーダー育成のため、日本薬学会や薬学部同窓会と連携しながら、薬学分野で活躍している女性研究者を招聘し、学生向けの講演会を行う。

２　学生を対象としたサイエンス・エンジェル制度の説明会を開催し、学部生・大学院生の男女共同参画活動に対する意識の向上を図る。また、研究科内で現役サイエンス・エンジェルの講演会等を開催し、学生・教職員との交流を推進する。

上記活動以外では、全学の男女共同参画委員会や男女共同参画推進センターの活動について教員会議で報告するとともに、メールで教職員へ周知した。

工学研究科

工学研究科等男女共同参画委員会では、平成２６年度は以下のように会議を開催し、また男女共同参画委員会と工学部入試検討委員会の共同によるミニフォーラム「工学にかける私の夢」（東北大学工学部オープンキャンパス）を実施した。

開催状況

平成 26 年

5 月 28 日　工学系研究科等女性研究者育成支援推進室（Association of Leading Woman Researchers in Engineering（以下 ALicE））の平成 25 年度決算と平成 26 年度予算（案）について審議し承認した。また全学の男女共同参画・女性研究者事業研究スキルアップ経費を補う方策として「工学系分野における女性研究者の世界的プレゼンス向上・国際共同研究推進プログラム（Supporting Travel Expenses Program to Activate Lady's International Collaboration in Engineering(以下、STEP-ALICE))という女性研究者の出張旅費支援制度を審議・承認し、今年度から実施することにした。例年オープンキャンパスで開催している女子学生のためのミニフォーラム「工学にかける私の夢」を今年度も開催することにし、講師の選定及び広報等について審議した。

7 月 23 日　全学スキルアップ経費を補う STEP-ALICE への第 1 回目の申請について申請内容を審査し、支援額を決定した。また、工学系研究者(男女問わず)の研究と育児の両立支援を目的としたベビーシッターや託児室の利用料等を補助するための「工学系ベビーシッター利用料等補助（Support program of Child Care Expenses for Researchers in Engineering（以下、SoCCER））の制度の提案とその要項(案)を審議し、承認した。

9 月 22 日　SoCCER への申請状況と全学からの補助の状況から支援額を決定した。また STEP-ALICE 採択者による実施内容報告書を審議した。7 月に開催した女子学生のためのミニフォーラムの開催状況を報告した。参加者数が昨年度より減少したことについて意見交換を行い、来年度に向けての改善案を整理した。

11 月 20 日　STEP-ALICE への 2 回目の申請について申請内容を審議し、支援額を決定した。SoCCER への申請について申請内容を審議し、支援額を決定した。10 月に開催された東北工学教育協会第 62 回年次大会に参加した委員から、他大学における女子学生・女性研究者の支援状況が報告された。

平成 27 年

2 月 19 日　平成 26 年度の予算執行報告について審議し、承認した。また平成 26 年度 ALicE 活動報告、平成 27 年度 ALicE プログラム等の実施要領とオープンキャンパス時のミニフォーラム開催方針等の審議を行った。さらに STEP-ALICE と SoCCER の採択者からの報告内容を確認した。

1　女子学生のためのミニフォーラム「工学にかける私の夢」の開催

東北大学工学研究科等男女共同参画委員会の主催により、例年、オープンキャンパス特別企画として女子学生のためのミニフォーラム「工学にかける私の夢」を開催している。この

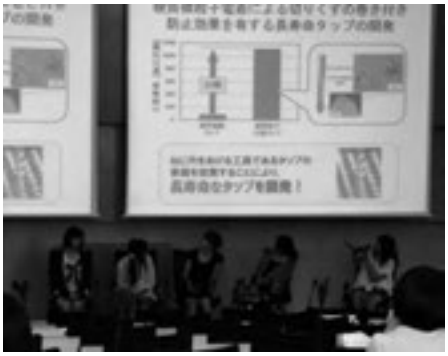
企画は多くの女子学生に工学の魅力を伝え、進路選択の参考にしてもらうことを目的としている。本年も７月３０、３１の両日に東北大学工学部で開催し、参加者は初日が３２名、二日目が７０名と初日の参加者が昨年より大幅に減少してしまった。原因は初日の開催時刻をオープンキャンパス見学者の帰宅間際に設定したためであった。ただし二日目は初日より開催時刻が早かったため、昨年よりも参加者は増加した。参加者に実施したアンケートからは「イメージとは違って、工学部には多様な研究分野や進路先があることがわかった」「背中を押してくれるような講演で元気づけられた。素敵な女性の先輩たちのように、自分も夢に向けて頑張りたい」という感想が寄せられた。来年度は、より多くの女子学生や保護者の方々に参加してもらえるように開催時刻の見直し等を行う予定である。

今年度のフォーラムでは、趣向を凝らして、例年の在学女子学生による講演にかえ、工学部の5学科に所属する女子学生5名に日頃の研究活動や日常生活などのクロストークを行ってもらった。また例年通り、本学出身の女性社会人と本学所属の女性教員からの講演も実施し、それぞれの立場から工学部を選んだ理由や研究・業務内容などの紹介と工学の魅力や女子学生へのメッセージが伝えられた。なおフォーラムのプログラムは以下の通りである。

プログラム

日　時: 7月30日(水) 14:45～16:00
場　所: 東北大学工学研究科･工学部　中央棟2階大会議室
講　演:
(1)松八重一代「工学部で働く経済学者の視点」(マテリアル・開発系　准教授)
(2)佐藤由子「しなやかな技術者を目指して」(原子力規制庁 技術基盤課)
(3)各学科の女子学生とのクロストーク(門田友希、石川玲美、中野日佳梨、武弓侑樹、横手加奈)
参加人数：３２名

日　時: 7月31日(木) 13:15～14:30
場　所: 東北大学工学研究科･工学部　中央棟2階大会議室
講　演:
(1)栗原和枝「世界からみた女性研究者の活躍」(化学バイオ系　教授)
(2)五十嵐さやか「安全･安心な建築を究める-建築系研究者のキャリアパスの一例」(大成建設株式会社　技術センター　建築技術研究所)
(3)各学科の女子学生とのクロストーク
(門田友希、長谷川奈保、馬場史織、武弓侑樹、横手加奈)
参加人数：７０名



２０１４年　女子学生ミニフォーラム「工学にかける私の夢」

2　工学系女性研究者育成支援推進室（ALicE）の活動

工学系男女共同参画委員会のもとに、平成 25 年度より情報科学研究科、環境科学研究科、医工学研究科、災害科学国際研究所、未来科学技術共同研究センター及び環境保全センターと連携して東北大学工学系研究科等女性研究者育成支援推進室（ALicE）を設置しており、①女子学生・女性研究者の育成・支援、②工学分野における男女共同参画意識の醸成、③女子学生が将来継続的に働く意識を高めるためのグランドデザインの策定の 3 項目を主目的として、各種活動を継続的に行っている。

具体的にはI. 研究活動の支援、II. 女性研究者の見える化・工学魅力の発信、III. 情報共有による問題解決、Ⅳ. ALicEの活動紹介について取り組んでいる。それぞれの項目について、平成 26 年度の活動内容を以下に示す。

I. 研究活動の支援

- 女性研究者の研究に係る出張経費の助成『STEP-ALICE プログラム』を、H26 年度前期は 4 名・5 テーマへ、後期は 3 名・4 テーマへの支援を実施した。
- 昨年度から開始した育児期の女性教員へ事務補佐員の派遣による、研究と育児の両立支援を本年度も行っている。本年度は 5 名の女性教員への支援を実施した。
- 工学系研究者（男女問わず）を対象とした、育児と研究の両立支援のための『工学系ベビーシッター利用料等補助』SoCCER の支援を開始した。本年度は 2 名の女性研究者への補助を行った。

ポスター：STEP-ALICE プログラム（左）と工学系ベビーシッター利用料等補助（右）

II. 女性研究者の見える化・工学魅力の発信

- サイエンス・エンジェル，カタールサイエンスキャンパスと共同で，女子小中学生向け科学体験プログラム「サイエンス・デイ for ガールズ　ちくちく縫って LED が光るかわいい小物作り」を開催した。女子小中学生や保護者を中心に，約 100 名が参加した。

科学体験プログラムの様子（左・中央）とイベント周知ポスター（右）

・　工学系における女子学生・女性研究者を紹介する「宮城の新聞」紙媒体を 70,000 部発行し、全仙台市立中学校の生徒と仙台市内の高校 16 校の生徒全員に配布した。また、オープンキャンパス時には来場者全員へ配布した。

『宮城の新聞』紙媒体　第 1 面及び第 4 面（広告）

・　工学系女性教員や女子学生を対象とした交流やスキルアップ・キャリア育成のためのセミナー・交流会を開催した。本年度開催（予定含む）のセミナー・交流会は下記の通りである。
　①　女子学生のためのミニフォーラム「工学にかける私の夢」（平成 26 年 7 月 30, 31 日）
　②　女子学生・女性研究者茶話会（平成 26 年 11 月 21 日）
　③　女子学生向けキャリア継続セミナー（電気系と共催，平成 27 年 3 月 7 日）

女子学生・女性研究者茶話会の様子（左・中央）及び周知ポスター（右）

・ Web「宮城の新聞」とのコラボレーション連載として，本年度は下記 4 件の記事を掲載した（H27 年 1 月末現在）。本年度は女子学生・女性研究者のみならず、男女共同参画や男性の育児参加に関する活動を広報することで、工学系全体としての男女共同参画意識の醸成を図った。

① 【東北大学 ALicE×宮城の新聞 ＃007】工学の魅力伝え、女子高校生の進路選択を後押し／東北大学工学部でフォーラム

② 【東北大学 ALicE×宮城の新聞 ＃008】三浦英生さん（東北大学機械系長）に聞く 多様性と共存の社会に必要なこと

③ 【東北大学 ALicE×宮城の新聞 ＃009】工学女子の現実と本音、ざっくばらんに語り合う／東北大で茶話会

④ 【東北大学 ALicE×宮城の新聞 ＃010】東北大で工学系イクメン座談会、男性目線で育児を語り合う（前・後編）

東北大学 ALicE×宮城の新聞コラボレーション記事（#007-#010）トップ画像

III. 情報共有による問題解決

・ 女性研究者・女子学生や育児期の研究者への情報提供・共有のため、ALicE Web（http://alice.eng.tohoku.ac.jp/）において全学やALicEによる各種支援制度の案内や、病後児保育室『星の子ルーム』の利用案内の掲載等を行っている。

・ 女性研究者・女子学生 ML を運営し、各種支援制度の募集やセミナー等の案内、女性向け各種公募等の情報を提供している。また、女性同士の情報交換の場としても利用されている。

・ 仙台市内のベビーシッターや一時預かり保育の情報一覧を調査作成し、希望者へ配布した。

・ ALicE Web や病後児保育利用案内、各種支援プログラムの申請書類記入例の英語版を作成・公開し、国際化対応を行った。

・ 女子学生・女性研究者に関する問題対応への助言を行う『おはなし窓口』を開設しており、工学研究科セーフティネットの一つとして、各種相談・問い合わせをメールや電話、対面にて受け付けている。

・ 必要な支援についての調査及び検討を独自に行うことで工学系特有の問題を把握し、きめ細やかな対応をするとともに、工学系男女共同参画委員会や部局内各専攻及び全学へと施策提案等を行う。

※ STEP-ALICE プログラム、育児期の女性研究者への事務補佐員派遣及び工学系

ベビーシッター利用料等補助については全学による支援事業と連携して実施。

※　病後児保育室利用案内（日・英）は、病後児保育室 Web において全学向けに公開。

ベビーシッター情報（左）、星の子ルーム利用案内日本語版（中央）及び英語版（右）

IV.　ALicEの活動紹介

- ALicE の活動周知や次世代への工学の魅力発信のため、ALicE の Web において各種イベント報告や支援制度利用者の報告、女子学生・女性研究者の受賞等の活躍を紹介している。
- 工学部教授会（平成 26 年 4 月）において平成 25 年度の ALicE の活動報告を行い，工学系での男女共同参画への意識の醸成を図った。
- 工学部及び工学系大学院入学者ガイダンスにおいて新入生全員に ALicE の活動紹介リーフレット及び『宮城の新聞』紙媒体を配布した。
- 田中真美 ALicE 室長が、ALicE の活動及び工学系の男女共同参画について講演を行った。
  ①　東北工学教育協会第62回年次大会（平成 26 年 10 月 22 日）
  ②　日本工学アカデミー北海道・東北支部講演会（平成 26 年 12 月 12 日）

東北工学教育協会第62回年次大会（左）、日本工学アカデミー北海道・東北支部講演会（右）

農学研究科

農学研究科男女参画委員会は、平成 22 年度より委員を拡充し、男女共同参画委員会活動を行っている。会議は主にメールで行い、各委員を中心に幅広く意見を集約した。全学での取組に協力に加えて、部局として独自の取組を行いつつある。

開催状況

平成 26 年

4 月 23 日　平成 26 年度第 1 回会議　本年度の方針及び予算請求に関して

5 月 7 日　予算請求書提出

6 月 17 日　予算請求に対するヒアリング

6 月 19 日　第 1 回 FD　（田中真美先生の講演）

7 月 11 日　平成 26 年度第 2 回会議　具体的な取組について I　（本会議）

7 月 16 日　平成 26 年度第 3 回会議　具体的な取組について II　（メール会議）

9 月 5 日　平成 26 年度 4 回会議　シンポジウムについて

10 月 22 日　平成 26 年度第 5 回会議　男女参画情報提供窓口及びポスター

11 月 14 日　農学研究科男女参画委員会主催シンポジウム「活躍する女性研究者たち」開催
間　先生、RIKEN　（紹介と座長は磯貝）
三上先生、札幌医科大学　（紹介と座長は井上先生）

11 月 14 日　男女参画委員会主催お茶会

平成 27 年

1 月 7 日　平成 26 年度第 6 回会議

1 月 18 日　平成 26 年度第 7 回会議

1　行動指針について

全学のものを参考にして平成 25 年度に作成したものを行動指針とした。

1）両立支援

研究科構成員が、年齢性別を問わず、仕事と生活の両立を図ることができるように、意識の醸成に努めるとともに、施設・制度面での整備を行う。青葉山キャンパスに建設が予定されている建物等の整備においても、男女共同参画に配慮する。

2）女性リーダー育成

農学部・農学研究科の学生の男女構成をふまえ、女性研究者を積極的に採用・養成する。そのために構成員の意識改革及び制度の整備を進める。

3）次世代育成

年齢性別等を問わず、農学部・農学研究科の学生を対象とした研究者使命の意識啓発とともに、男女共同参画意識の醸成のための施策を推進する。

4）地域連携・社会貢献

本研究科の専門性を活かし、関わりのある行政、産業、地域社会などにおける男女共同参画に貢献する。

5）支援推進体制

上記の男女共同参画活動を円滑に推進するため、現行の男女共同参画委員会の活動・体制を充実させるとともに、研究科全体で男女共同参画を推進するため、全構成委員を対象とした研修を定期的に実施する。

2　本年度の取組

1）行動指針の表明

全学の行動指針にそって、農学部としての姿勢や方向性（部局内指針）を表明した。東

北大学としての考え方や東北大学全体の試みなどの紹介し、組織としてのビジョンを共有するため、メール配信等を行った。それに基づいて現在の問題点や今後の課題を考える機会とし、学系等での話し合いが行われた。農学研究科の行動指針にそった、平成 25 年度に計画していた独自の取組を実行した。

2）講演会の開催

男女共同参画に関するＦＤについて、ＦＤ委員会にて開催を要請していた田中真美先生の講演が行われた。また、本年度はじめて男女参画委員会での申請した予算が認められ、男女参画委員会主催のシンポジウム講演会を開催した。

3）両立支援のための環境整備

農学部として必要な制度や施設について要望を調査した。青葉山保育所（仮称）の予定していた建物が白紙となったことを報告した。今後も継続して保育園設置にむけて要望を継続していくことを確認した。

4）職員や学生への情報窓口の設置

全学のメンター制度を参考にした、情報窓口を事務部に設置した。男女参画取組に関する紹介ポスターを作成し、シンポジウム後の交流会で説明・配布した。

5）女性職員ならびに女子学生交流会

シンポジウム後、交流会（紅茶とお菓子の会）を開催した。

3　その他特記事項

1）平成 25 年度も女性教員の採用がなく、改善の必要がある。教員採用に際し積極的に女性を採用するよう、教授会の場で研究科長が繰り返し発言している。来年度はそうした意識啓発が実際に女性教員の採用に結びつくよう具体的な対策が必要である。東北大学では女性研究者の育成支援を積極的に推進していることを強調して公募要領に記載している。

2）研究科独自の取組と意識改革が必要である。

3）農学研究科では、日本学術振興会「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」による「持続可能な農林水産業構築のための海外派遣支援」事業に取組、若手研究者を積極的に海外に派遣しているが、このプログラムの実質的リーダーは女性教員が担っている。他にも、外部資金の獲得など、農学研究科では女性研究者が研究活動の中心になる事例が数多く現われている。

4）夫婦がそろって研究者の場合、異なる分野へ同時配属などの方法も必要かもしれない。また、保育園の関係(女川、川渡では保育園の確保が難しい)ため転職せざるを得ないケースがあった。ある時期までは仙台という方式も選べるようにしていくことも考慮すべきことである。

国際文化研究科

国際文化研究科男女共同参画推進委員会は、委員長・副委員長を含めて 4 名（教授 4 名／女性 2 名・男性 2 名）で構成され、研究科の諸委員会・窓口と連携して男女共同参画に関連する教育・研究環境の整備に努めた。本委員会の開催状況ならびに本委員会の活動を含む国際文化研究科の活動内容は下記の通りである。

開催状況

平成 26 年

4 月 16 日　平成 25 年度からの引き継ぎ事項について
　　平成 26 年度の活動計画について

以後は、随時メール会議を開催した。

活動内容

1　男女共同参画推進委員会専用のメールアドレスを研究科内に周知することで、より相談しやすい環境を整えている。メールアドレスの管理は委員長が行っている。

2　研究科主催の FD 開催に協力した。
　期日：平成 27 年 2 月 4 日
　講師；池田忠義先生、長友周悟先生（本学、学生相談・特別支援センター）
　演題：「大学におけるハラスメント問題の理解と対応」（池田先生）
　　「障害のある学生への合理的配慮の考え方と支援の実際について」（長友先生）

3　研究科主催の新入生オリエンテーションにおいて男女共同参画にかかわる大学内及び研究科内の状況を紹介し、男女共同参画に対する理解を呼びかけた。また、男女共同参画推進委員会が相談窓口の機能を併せ持っていることをも広報した。

4　平成 23 年度に設置した女性職員用休憩室（兼授乳室、必要な場合は学生の使用も可）に必要な備品等を購入し、ひきつづき整備に努めた。

5　国際交流・学生支援室にハラスメントならびに男女共同参画関係の書籍等を新たに追加購入し、従来備え付けられていたものと合わせて、学生に利用を呼びかけている。

今後の取組

1　国際文化研究科棟は、平成 26 年度中に耐震改修工事を終えたが、工事終了後も引き続き女性職員用休憩室の一層の整備を図り、女性職員や女子学生がより安心して研究科内での勤務や研究活動に従事できる環境の整備に取り組む。

2　引き続き関連する FD の開催を検討し、教職員・学生のさらなる意識向上を図る。

3　引き続き研究科の新入生オリエンテーション等において男女共同参画にかかわる研究科内の状況と活動を紹介し、男女共同参画に対する理解を呼びかける。

4　男女共同参画やハラスメントに関連する学生用書籍購入等の措置を続けるとともに、男

女共同参画に関する研究科内の環境改善や意識向上のためのさらなる施策を検討する。

5　男女共同参画シンポジウムを初めとする全学的な活動に積極的に参加する。

情報科学研究科

大学院情報科学研究科では、尾畑　伸明（情報科学研究科長補佐）を委員長とした研究科運営検討委員会において全学の中期目標である男女職員数の格差是正のための制度に対して検討を行っている。また、具体的な事案の検討のため、徳山豪研究科長の他に教員４名と事務長の計６名で構成されている男女共同参画ワーキンググループが設置されている。平成 26 年度は WG の会合の開催はせず、メール審議により意見交換を行い、協議及び立案を行った。

開催状況

平成 26 年度にはワーキンググループの開催は行わなかった（メール審議のみ）。　運営検討委員会の開催は毎月１回行っている。

1　公募時の女性教員のサーベイの依頼の実施を行っており、公募時の女性応募者の有無やサーベイの実施について教員選考委員会での報告を義務付け、実施している。また、女性教員の比率向上に関する施策の検討を引き続き行っており、外部の識者を交えた運営協議会から意見を集め、対策を協議している。本年度は准教授１名・助教１名、合計２名の新規採用を行った。

2　運営検討委員会で男女共同参画に向けて研究科の環境整備の検討を行っている。

3　サイエンス・エンジェル、澤柳記念賞応募の呼びかけや男女共同参画関連の講演会やシンポジウムへの出席など、学生や教員への男女共同参画意識の啓蒙に努めている。

4　女子休憩室の見直しを行い、場所移動、設備整備、セキュリティー強化を行い、女子学生・教員がより快適に利用できるように改善を行った。

生命科学研究科

生命科学研究科男女共同参画委員会は、教員３名（うち１名は女性教員）で構成されている。常時メールで必要事項の連絡を行っている。今年度は以下の活動を行った。

活動内容

1　平成２６年４月４日（金）: 生命科学研究科新入生オリエンテーションにおいて、研究科の男女共同参画への取組などについて説明するとともに、男女共同参画ネットワーク構築メーリングリストへの参加、サイエンス・エンジェルへの参加を呼びかけた。

2　平成２６年５月３１日（土）: 仙台市において開催された生命科学研究科の入試説明会・

オープンラボにおいて、研究科の男女共同参画への取組などについて説明を行った。

３　ベビーシッター利用料等補助制度及びサイエンス・エンジェル制度への積極的な応募を呼びかけた。

環境科学研究科

環境科学研究科では、４つの教育コース及び事務部から選出された委員で男女共同参画 WG を構成し、研究科内の男女共同参画意識の向上に取り組んでいる。
本年度は前年度に加入した工学研究科等男女共同参画委員会を通した活動を行った。

開催状況
工学研究科記載の通り。

医工学研究科

１　医工学研究科単独でなく、平成 25 年度より設立された工学研究科、情報科学研究科、環境科学研究科、災害科学国際研究所、環境保全センター、NICHe 等と共同で「東北大学 工学系研究科 女性研究者 育成支援推進室 ALicE」にて活動を行っている。今年度は女子学生の第３回仙台Ｉゾンタクラブ東北大学大学院 女子学生海外渡航支援事業採用、Falling Walls Lab Sendai での受賞、及び MIT 学生派遣レポートが工学研究科 Web に掲載されたことが紹介された。また、女性教員についても、日経産業新聞『医・工学結ぶ人材育成/東北大大学院　革新的製品担う』にて担当の細胞遺伝子工学実習の様子とコメントが掲載されたことの紹介、本研究科所属の ALicE 室長の工学アカデミーでの本学の男女共同参画や ALicE に関する講演、研究に関する『市民のためのサイエンス講座 2015』、及び第 11 回日本学術振興会受賞について Web にて紹介された。その他詳細は工学研究科の欄を参照されたい。

２　ALicE に所属の部局と共同での工学系男女共同参画員会を開催し種々の問題について検討対応等をしている。こちらも詳細は工学研究科の欄を参照されたい。

３　高校教員を対象としたサイエンスリーダーズキャンプ（SLC）「革新的な未来を拓く医工連携人材育成の現場」で、本学の全学男女共同参画委員会や ALicE の活動についての講演を行った。また女性教員の研究室見学会や「学習指導と人材育成」に関するグループディスカッションにも女性教員が参加し、高校教員に対して男女共同参画に関する意識啓発を行った。SLC ニュースレターへ受講した高校教諭から女子学生への進路指導への一助となったと報告が数件寄せられている。

教育情報学研究部・教育部

教育情報学研究部では、男女共同参画委員会は教授会構成員の内１名から構成されている。本研究部は平成 14 年 4 月創立の現在(平成 26 年)教授、准教授、講師、助教、助手合わせて 9 名の小規模な独立大学院であり、女性教員は創立当時から採用されていない。平成 25 年に准教授の新採用のための公募を行った。公募には女性教員の採用については積極的に考慮することを明記したが、女性教員の新規採用は残念ながら実現しなかった。次年度以降の教員の新採用の機会があれば、女性教員の採用を念頭に人選に取り組んでいきたい。

研究部教授会において男女共同参画委員は以下のような活動を行った。

1　男女共同参画委員会の活動を報告した。
2　男女共同参画に関連するシンポジウムなどの活動への参加を促した。
3　女性教員の不在の事実を再認識させた。

教育情報学教育部は現在(平成 26 年)修士課程 24 名、博士課程 23 名が在籍しており、そのうち各々63%、35%が女子学生である。情報科学と教育が融合した教育情報という新しい研究分野における女性研究者、女性専門家の育成にこれからも努めていく。

金属材料研究所

金属材料研究所男女共同参画ワーキンググループは、委員として教員が淡路智(委員長)、梅津理恵、佐藤豊人、稗田純子(6 月 30 日まで)、出浦桃子（7 月 1 日より)、技術職員が板垣俊子、伊藤俊、事務職員が百束広道、小谷美智、米永一郎（オブザーバー）の男性 5 名、女性 4 名の計 9 名(累計 10 名)で構成されている。本年度はメールを使用した相談とセミナー活動を行った。

① 前年度３月８日、今年度の金研男女共同参画 WG 委員会の活動計画を相談。特に、女性休憩室の清掃と管理について審議。
② ５月２０日、委員交代に関する審議。
③ 女性休憩室について、所の予算措置に基づく定期清掃と男女共同参画 WG の女性委員が中心となった利用と整頓状況の毎月の確認。
④ 男女共同参画シンポジウムへの参加等について、メールやチラシによる案内に努めた。
⑤ ３月８日(月)、名古屋工業大学川島慶子教授をお迎えして、金研男女共同参画セミナー「ジェンダーと科学イメージの問題 － マリー・キュリーの 1911 年」を開催。所長をはじめとする本所首脳が参加し、従来の男女共同参画の枠を越えた議論が展開。
⑥ 同日、川島先生を囲み、本所女性教職員を中心としたランチミーティング交流会を実施。本所の男女共同参画の推進について、忌憚のない意見交換。
⑦ 分野の女子学生・研究者の増加に向けて、金属学会等を通じ、夏の学校、ランチョンセミナー等での積極的な活動を参画。
⑧ 本所の女性教職員・学生・研究者の増加に対応すべく、これまで女性用トイレのなかった階に新設された。

金属材料研究所における現状

金属材料研究所では１名の助教が転出し、その結果、女性教員比率は昨年度の 4.5 %から 3.7％へと低下した。その比率は 2 年連続の低下であり、女性教員比率を見る限り停滞さらに後退の現状は否めない。とりわけ、転出が多く、現在の分野内での限られた人材からの採用は困難な状況になりつつある。本所の教員にかかる任期制も含め、新規教員、及び優れた教員の上級職への応募に関する勧誘のための抜本的な制度改革、環境整備が必要と思われる。

次年度計画

次年度に向けて、外部有識者による講演会・セミナー・所内交流会を継続的に実施する。さらに、学会等を通じてより効果的な女子学生増加活動を継続する。

加齢医学研究所

現状では、加齢医学研究所に男女共同参画のＷＧや委員会などはないが、総務・人事委員会が男女共同参画について所掌しており、男女共同参画委員会の委員が１名いる。また、この委員は星陵地区男女共同参画ネットワーク会議の委員もかねている。全体として、以下のような活動を行った。

1　男女共同参画員会の活動の報告を主にメールで行った。
2　女子学生入学 100 周年記念シンポジウムへの参加を促す呼びかけを行った。
3　星陵地区男女共同参画ネットワーク会議に参加し、立場、境遇等に類似点の多い部局の取組を参考に改善を図った。

今後の取組

平成 26 年度の新規採用者の女性比率は 0%と大幅に低下したが、昨年 4 月に加齢医学研究所始まって以来初めて誕生した女性教授に引続きさらに一人女性教授が誕生した。また、加齢医学研究所で受け入れている、平成 25 年度の博士後期課程の大学院生の女子大学院生の比率は 24%、博士前期課程の大学院生の女性大学院生の比率は 40%となっており、多くの女子大学院生に対して研究指導が行われている。星陵地区男女共同参画ネットワーク会議に出席することによって、各部局における現状と課題に対する対応策、すなわち最も身近な事例を参考にして、改善を図っていく。次年度以降の教員の採用の際に、男女比率の改善を目指して努力する。教職員及び学生の意識改革を進め、長期的な視野に立ち、現在受け入れている女子大学院生、女性研究者を育成していく。

流体科学研究所

流体科学研究所男女共同参画ワーキンググループは、3 名の教授会構成員（男性 2 名、女性 1 名）で構成されている。流体科学研究所は構成分野が主として工学研究科機械系の協力講座となっており、女子学生、女性研究者の少ない研究分野ながらも、男女共同参画意識向上に向けて、以下の取組を行ってきた。

開催状況

平成 26 年度はワーキンググループの開催は行わなかった。情報等の展開・伝達は主としてメールで行ってきた。

活動内容

1　育児両立支援に関する活動

育児等の理由がある女性教員の研究活動をサポートするため、技術補佐員支援制度を設けている。本年度は 1 名の技術補佐員を採用し、育児中の女性教員の支援を行った。また、女性教職員の職場復帰を支援するため、女子休憩室内に搾乳スペースを完備した。

2　男女共同参画に関する活動

流体科学研究所の新規教員公募時には、「なお、東北大学は、男女共同参画を積極的に推進している。子育て支援の詳細等、男女共同参画の取組については下記ＵＲＬを参照のこと。」の文言を公募要領入れ、男女共同参画を強く推進していることを広く案内してきた。また、流体科学研究所は任期制を取り入れているが、男女を問わず、育児休業等を取得した場合はそれを考慮して任期を通常より延長できるようにしている。合わせて、研究所のホームページ内に「女子学生の方へ　女性科学者として生きる」というページを設け、実際に研究者として活動している教職員の声を掲載し、当該分野における女子学生の育成活動を行ってきた。

電気通信研究所

電気通信研究所　男女共同参画検討 WG は、総務担当副所長、総務委員会幹事（准教授）、事務長、総務係員で構成され、男女共同参画にかかる諸活動を所内の関係する委員会と連携して行っている。

開催状況

平成 26 年

4 月	東北大男女共同参画・女性研究者支援事業研究スキルアップ経費の応募の呼びかけを対象となる研究者に行った。最終的には 1 件の申請が行われて採択され、8/4～8 にオーストリアで行われた 16th International Conference on Geometry and Graphics への渡航旅費の補助が行われた。
11 月	第 11 回東北大学男女共同参画シンポジウムへの参加呼びかけを行った。最終的に所内から 1 名が参加した。

平成 27 年

2 月	平成 26 年度男女共同参画委員会報告書の報告のために、今年度の活動内容について総括した。

電気通信研究所における現状

平成 22 年度から教授、助教と 1 名ずつ転出していき、電気通信研究所における女性教員は依然として低い状況である。このような状況を鑑み、平成 25 年度に策定した部局ビジョンに従い、自主財源による女性教員特別枠を新設し、平成 25 年度には助教 1 名が任用され、平成 26 年度も継続して任用された。また、女性研究者に向けた研究環境支援も行い、実際

に研究スキルアップ経費への申請が行われて採択されるなど、成果をあげつつある状況である。

とはいえ、現在女性教員はこの１名のみであり、女性構成員比率は 1.52 ％（1 月 1 日現在）と依然として低い状態にある。生体情報や医工学に関連した研究分野など、研究分野によっては、今後女性が活躍できる分野があり、女性教員特別枠を有効に活用すると共に、女子学生が研究者の道に積極的に進めるような働きかけを強めていく等、男女共同参画への取組を継続していく。

多元物質科学研究所

平成 26 年度の多元物質科学研究所男女共同参画委員会は、永次史教授（委員長）、柳原美廣教授、佐上博准教授、宇井美穂子助教、相馬出技術職員、南裕子研究協力係主任を構成員とし、下記のように活動した。全学の男女共同参画委員会の審議事項、シンポジウムなどについては、教授会において報告し、必要に応じメールなどで周知した。

本年度の取組

1　一昨年度開設した研究所の男女共同参画の Web サイト（URL： http://www.tagen.tohoku.ac.jp/danjyo/ ）を随時更新した。

2　2014 年 11 月 29 日(土)に行われた第１１回東北大学男女共同参画シンポジウム　未来の男女今日参画社会への新たなる発信～女子学生入学１０１年目を迎えた東北大学から～女子学生入学百周年記念シンポジウム～の企画を担当した。シンポジウムは学内外から約 140 名の参加者があり、大変盛会であった。

3　５月１日に女性教員５名、女子学生５名に集まっていただき、多元研図書館にてクローバーの会を開催した。多元研では建物が散らばっていることからそれぞれの建物の責任者をまず決定し、今後の連絡に生かすこととした。この責任者の方にお願いし、女性研究者の連絡網の作成及び多元研における女子学生及女性研究者の人数調査を行った。

4　科研棟Ｎ棟の改修工事に伴う、科研棟の女性休憩室の使用について議論した。科研棟Ｎ棟の改修工事が終わる３月まで、科研棟Ｓ棟女性休憩室を更衣室として提供することとなった。反応研棟の女性休憩室は引き続き使用できる。

災害科学国際研究所

災害科学国際研究所では、以前より、工学研究科、医工学研究科、情報科学研究科、環境科学研究科、災害科学国際研究所、環境保全センター、NICH e と共同で設立した「東北大学 工学系研究科 女性研究者 育成支援推進室 ALicE」の枠組みで男女共同参画に関する活動を行ってきたが、より一層の男女共同参画推進のため、平成 27 年 2 月に男性教員 1 名、女性教員 1 名の計 2 名で構成された男女共同参画 WG を設置した。

災害科学国際研究所において人事採用を行うのは今年度が 3 年目であるが、昨年度に引き続き積極的に女性教員の拡充を目指した採用方針をとっている。その結果、本年度は新規採用 4 名教員中 2 名、50%の比率で女性教員が採用されている。全体での比率も、准教授・助教・助手においては 14.5%と、昨年度の 13.9%を上回る女性比率となっている。

今後も引き続き教員の採用においては、男女比率のより一層の向上を目指して努力する。任期制に基づく人事公募においては、男女共同参画の趣旨に副う選考を行うことを引き続き明示する予定である。また、全学や ALicE における男女共同参画への取組を所員に一層浸透させ、男女ともに働きやすい職場環境を目指して、男女共同参画を推進していく。

東北アジア研究センター

東北アジア研究センターでは、センター長（岡洋樹教授）、副センター長 2 名、事務長（佐藤吉和）及び全学男女共同参画委員会委員（平成 25 年度からは寺山恭輔教授）によりセンター長直属の専門委員会として「男女共同参画ワーキンググループ」を設置し、全学男女共同参画委員会委員を座長として活動を行っている。

開催状況

今年度、会議は開催しておらず、男女共同参画ワーキンググループの間でメールを交換する形で行った。比較的少人数の部局であるため、当該委員がセンター専任教員のほか研究支援者等まで含めた研究者全員で構成するセンター全体会議で活動報告等を行い、質問・意見等を受け付けることによって問題意識の共有を図っている。

平成 26 年

5 月 26 日　センター全体会議で、東北大学大学院女子院生の海外シンポ、セミナー等における発表を支援する仙台 I ゾンタクラブ助成への応募を、女子大学院生を指導する教員に呼びかけた。

7 月 28 日　センター全体会議で、11 月 29 日開催の第 11 回男女共同参画シンポジウムへの参加を呼びかけた。

10 月 27 日　センター全体会議で、第 11 回男女共同参画シンポジウムへの参加を呼びかけるとともに、2015 年 1 月のセンター試験に従事する男性を含む教職員には、けやき保育園を活用するように呼びかけた。

11 月 29 日　第 11 回男女共同参画シンポジウムに男女共同参画委員が参加した。

1 月　東北大学女子学生入学百周年記念事業報告書をセンター内での閲覧に供した。

その他特記事項

人事政策として、女性教員の比率向上に関する施策の検討を引き続き行っており、教員公募書類には、男女共同参画を推進していることを明記している。本年度は残念ながら女性教員の新規採用はなかったが、研究支援部門の企画運営室に、研究管理担当の特任助教として、公募で女性 1 名を採用した。このほか、平成 26 年度はフルブライト米国人招聘講師・研究員として女性 1 名、日本学術振興会外国人特別研究員として女性 1 名を招聘した。また、平成 26 年度受け入れ中の専門研究員 4 名のうち 2 名の女性研究員が従事している。また、平成 26 年度は3名の女性の外国人研究員（客員教授）を受け入れた。さらに、人文社会系所部局の連携促進のため当センターに設置されているコラボレーション・オフィスにおいて、平成 26 年度に女性事務補佐員 1 名が退職したのに伴い、新たに 1 名の増員を行った。震災後の耐震改修工事が終了して、移転完了後、平成 25 年度にセンター内のレイ

アウトを変更し、女性教職員用休憩室を確保したが、女性の教職員がより安心してセンター内での勤務や、研究活動に従事できるよう、今後ともその一層の充実につとめたい。

病院

病院における男女共同参画を推進するための取組

活動記録

1　星陵地区男女共同参画ネットワーク会議

星陵キャンパスの部局（医学系研究科、歯学系研究科、加齢医学研究所、病院、メディカル・メガバンク）からの東北大学男女共同参画委員会委員が各部局での現状と課題に関して情報交換を行なった。

平成 26 年

8 月 7 日　　第一回会議 10:00~11:30

10 月 28 日　第二回会議 10:00~11:30

平成 27 年

2 月 6 日　　第三回会議 13:00~14:00

2　開催記録：星陵地区男女共同参画ネットワークの一員として下記を共催した。

平成 27 年 1 月 13 日

女子大学院生ネットワーク形成と次世代支援　~東北大学サイエンス・エンジェル活動の紹介~

3　女性医師支援推進室の活動

平成 26 年の 7 月、10 月と２回会合を開き、出産や育児からの復帰及び大学院復学の妨げになっている点を当事者視点で下記①から④にとりまとめ、改善をはかる要望書を病院長宛に提出した。その結果、４に示す改善が得られた。

①　医学部、歯学部学生のときにワークライフバランスについて考える機会がない。

②　保育園の定員に比して入所希望者が多い(特に０歳児)ため定員を増やす必要がある。

③　学童期に養育環境への支援が大きく減る「小 1 の壁」がキャリア継続に支障となる。学童保育の設置を検討していただきたい。

④　介護や持病などを抱えながらのキャリア継続を支援するための時短医員の対象を拡大していただきたい。

4　今年度の成果

短時間勤務医員の雇用の実績

平成 26 年 4 月 1 日現在　13 名

平成 27 年 1 月 19 日現在　15 名　（平成 26 年度までは育児中の医師が対象)。

平成 27 年度から短時間勤務医員制度を見直し、取扱要項内規を改正し施行予定となる。

改正後は下記も短時間勤務医員の対象に加えられる。

小学校三年までの子を養育する者（未就学児までから拡大）

親の介護、自身の健康状態の理由により短時間勤務を希望する者

５　病院内の病後児保育室「星の子ルーム」への小児科のバックアップを継続した。

本部事務機構

研修の受講

１　参加状況

本学の求める人材像は、「高い倫理観に立脚し、国際水準の大学を支える職員の自覚と問題意識を持ち、変化に適応し、チャレンジブルに行動し、自ら成長しつつ本学の発展に寄与できる自立的な人材」である。事務職員等の研修については、求める人材像に基づき、各職員の組織における職務と責任の遂行に必要な知識・技術及び将来に向かって必要となる知識等の付与並びに自己啓発の機会を与えることによって、業務の遂行能力の向上を図ることを目的に実施している。

研修の実施にあたっては、性別に関係なく、各研修の目的や内容に応じ研修参加者を選考している他、幅広く研修への参加を周知し、公募を行っている。

２　平成２６年度における主な研修の実施状況（東北大学主催）

項目	研修名	参加者数	女性参加者（内数）	女性参加比率（%）
階層別研修	初任者研修（4 月）	63 名	28 名	44.4
	初任者フォロー研修（9 月）	62 名	27 名	43.5
	若手職員研修（10 月）	11 名	3 名	27.3
	中堅職員研修（11 月）	25 名	12 名	48.0
	係長研修（11 月・12 月）	25 名	3 名	12.0
	新任管理者等研修（8 月）	34 名	10 名	29.4
その他の研修	自己啓発研修（放送大学（通年））	58 名	21 名	36.2
	自己啓発研修（通信教育（通年））	196 名	111 名	56.6
	女性職員のキャリア形成支援研修（10 月）	19 名	19 名	100.0
	ハラスメント防止対策講習会（11 月）	33 名	18 名	54.5
	再雇用準備セミナー（12 月）	18 名	9 名	50.0